



## 益城の文化財

# 霜御前社

—田原—

地区の人たちに「ゴゼンさん」と呼ばれている霜御前社は、田原(堂園橋近く)に小社として鎮座しています。

12世紀の中頃の建立と推定されており、鎌倉時代には「下の御前社」と称されましたが「下」は神が天より下り給うたという意味と考えられます。

津森保の丘陵部(高遊原などの台地一帯)の開発は、伝承的には阿蘇の開発神である、阿蘇社の第一神建磐龍命によるとされており、現在も高遊原公園内には阿蘇の神を拝む「阿蘇遥拝所」が残っています。

有力な在地領主で政治的指導権を持つ伽藍源太夫は、この建磐龍命を迎えて「星の神」として祀り、社名も「御前社」と付け、津森郷一帯の開拓神および丘陵地帯の守護神としたのではないかと思います。

「御前」と敬称が付いている神社は、本町ではこの神社のみで、最高の地位を持つ神を祀る神社であったと思われます。

なお、『肥後國誌』には霜御前社の項に、「寒霜早く降り五穀熟せず、故に天の七星を祭り給う、毎年十月朔日御星祭りと称して十三村順番に宮座ありて隣村へ神輿を贈る。故に毎年宮所を異にし津森郷中の祭なり」と紹介しており、「お法使祭」を「御星祭り」という人もいます。それが15世紀頃、津森城主光永氏の祭礼の合体政策により、津森神宮を中心にした「お法使祭」になったという説もあります。

参考文献 「益城町史」通史編

町文化財保護委員会

## 俳句

早川宏次 選

強霜のやさしくなりて花芽吹く  
山道の水辺の藪に初音聞く  
酒蔵と香にひかれ搾り酒  
箱火鉢五徳の上で餅おどり  
冬帽子ふかふかかぶり友の家へ  
からし菜を春の一品膳に出す  
福寿草都会の隅で春を待つ

下陳 城 陶子  
広崎 松原まゆみ  
惣領 新居 露子  
木山 増岡 伸禧  
木山 山口サツキ  
惣領 阪口由美子  
惣領 阪口 基明

## 狂句

田上富岳 選

やっこさ 気合い入れんと立ちきらん  
やっこさ 明るい未来無かごたる  
やっこさ 紙一重でち通りやよか  
やっこさ 肥後トンネルに出口見え  
期待外れ 祝儀袋が勝つとらす  
期待外れ 言わずばかりで計もなか  
期待外れ 何処の親でも抱く夢  
期待外れ 国はいっちゃん良うならん  
期待外れ 良妻賢母何処の誰  
期待外れ 値段の割に美味くない

宮園 岩本よろこ  
宮園 永瀬 美波  
宮園 井藤 吉郎  
広崎 松原まゆみ  
木山 増岡 酔粋  
惣領 阪口 基明  
木山 増岡 酔粋  
江津 高田美佐子  
島田 堀川 骨鶏  
広崎 松原まゆみ

## 狂句次号の課題 「いじつて」 「一生もの」

投稿は役場広報係まで。漢字は読み方を記入。  
投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。  
※数種に投稿される場合は、別にお送りください。